

中原区ソーシャルデザインセンター 創出に向けた検討会

中原区役所まちづくり推進部企画課

令和4年2月18日(金)18時30分開会

次第

1. 本日の目的

2. おさらい

3. 意見交換

4. その他

※グループワークの際等お話しいただく場合以外はミュートでお願いします。事務局の方でミュートにさせていただく場合がありますが、御理解ください。

1. 本日の目的

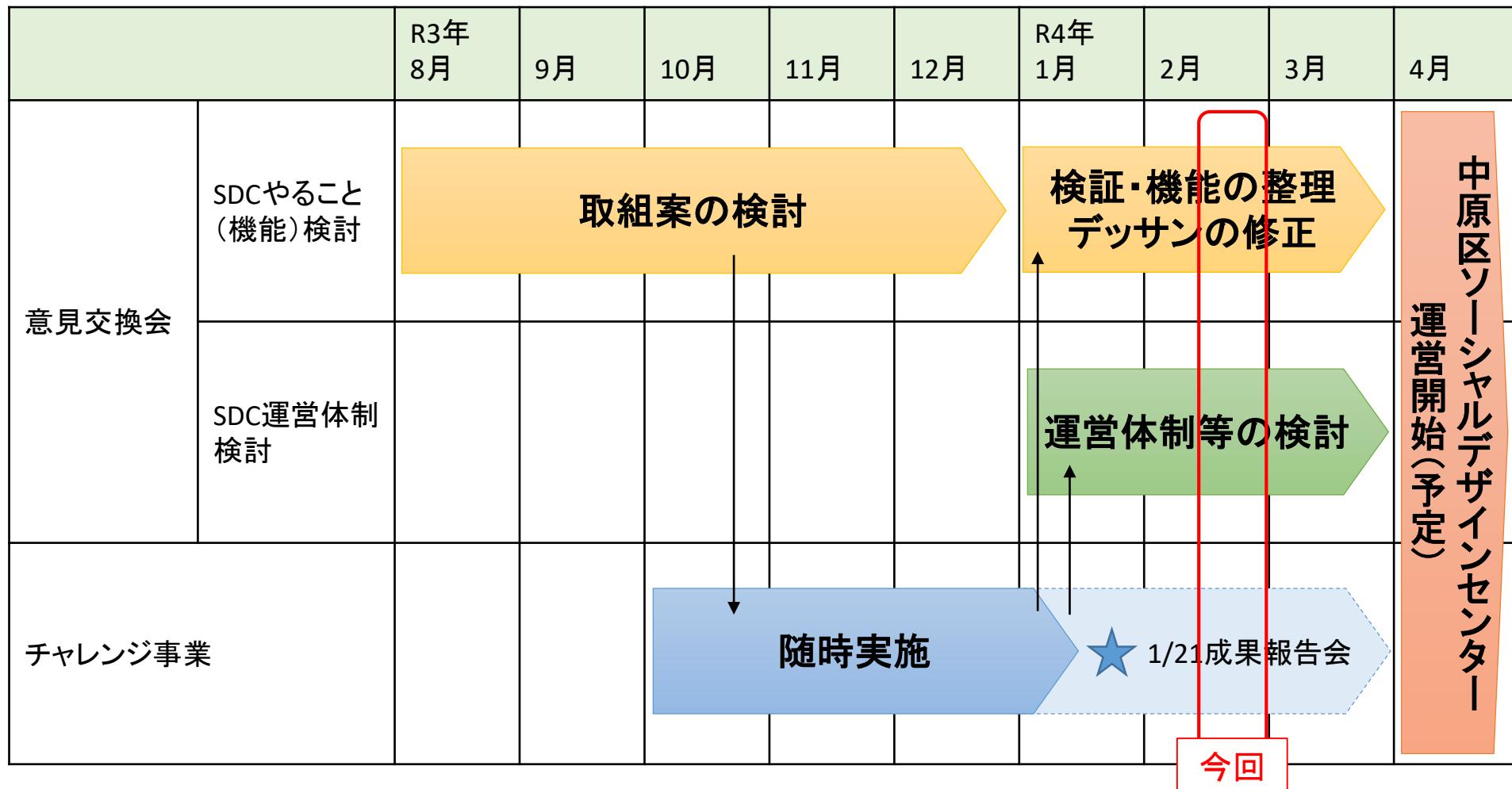
○本日の目的

- ・今後の検討の進め方を考える

(2月4日の続き)

2. おさらい

○検討のスケジュール



おさらい

ソーシャルデザインセンターとは…
地域で新しい活動や価値を生み出す基盤
(プラットフォーム)



- ・コミュニティ活動の基盤
- ・地域主体(地域住民)
- ・資源を持ち寄る、
自主財源を探す
- ・コミュニティの基盤
づくりに必要なこと



- ・コミュニティ活動
- ・行政(区役所)
- ・行政からの補助金

活動場所

おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

設置案

地域活動の主体ではなく、地域の活動を**支援**する**プラットフォーム（基盤）**として、地域のさまざまな人や取組について「知る」「集う」「つながる」機会をつくります。

場所

- ・中原市民館ラウンジに設置します。
- ・オンライン上の場を作ります。

※中原市民館ラウンジは令和3年5月現在、利用できません

主体・運営

- ・興味、関心のあることで参加できる自由参加の場とします。
- ・参加者がそれぞれの資源を持ち寄り運営します。

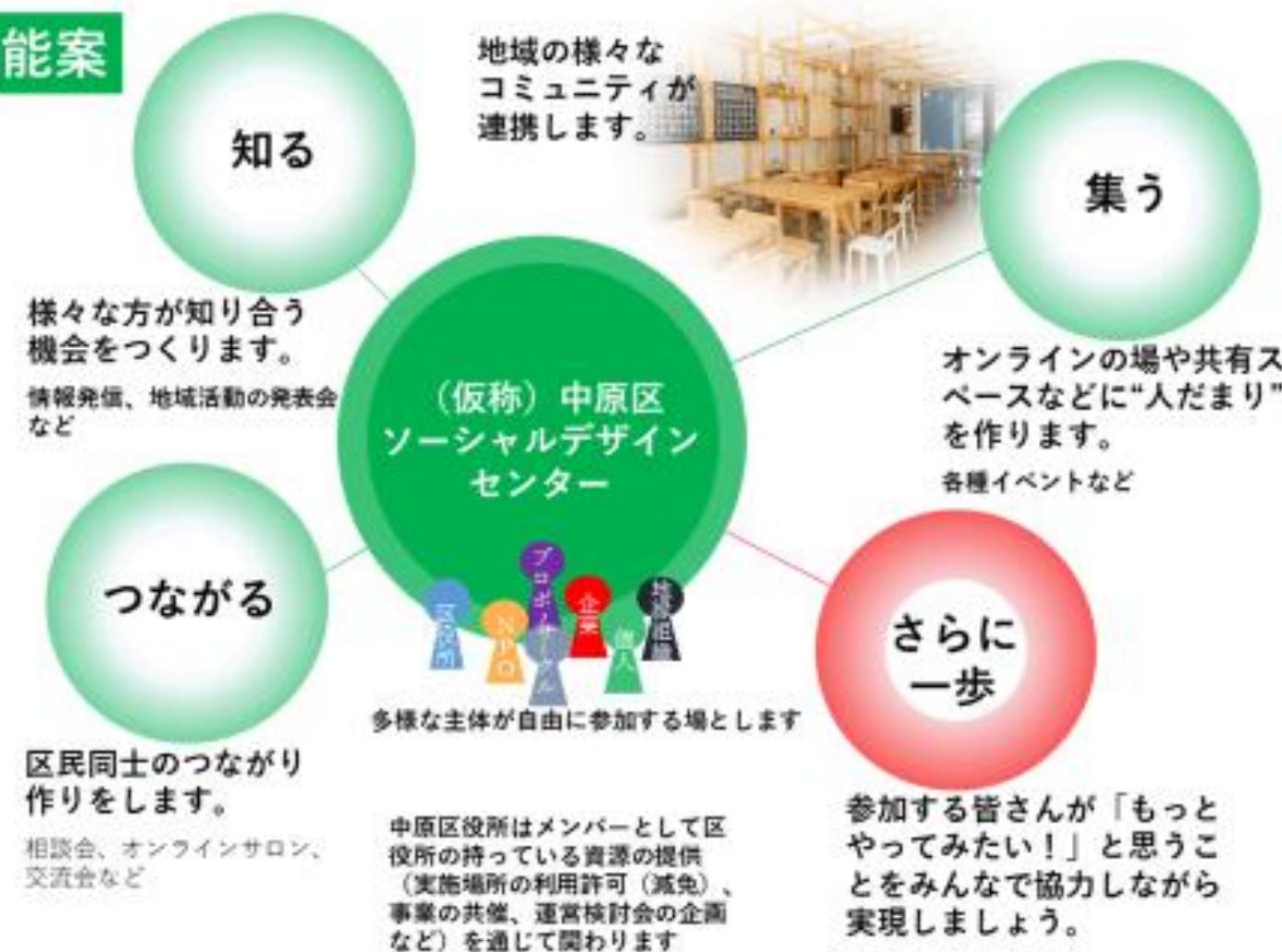
機能

- ・情報発信、勉強会、交流会、相談会、シェアオフィスなど「知る」「集う」「つながる」を実践します。
- ・地域の方同士でコーディネートできる関係づくりを進めます。

おさらい

○中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けたデッサン(抜粋)

機能案



おさらい

○デッサン修正案(1月21日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会グループノートまとめ)

機能案

○情報収集・発信

- ・発信したい人が集まり、メディアへ情報提供をする
- ・情報へアクセスできる場・媒体を作る(何でも情報SNS、区の情報を気軽に聞ける場、地域課題カタログ)

知る

地域の様々な
コミュニティが
連携します。

集う

(仮称)中原区
ソーシャルデザイン
センター

つながる

多様な主体が自由に参加する場とします

その他

○マッチング・コーディネート

- ・「人」と「人や情報」をマッチングする
- ・コーディネートを行う(コーディネーターがいる、リンクワーカーがつながる場、コラボ生まれる新しい場を作る)

○中継点(HUB)

- ・地域情報や団体間のHUBとなる

○場の提供

- ・気軽に集える場(リアルとオンライン)を作る
- ・活動や人がつながる場を作る
- ・活動場所の提供

○活動支援

- ・ファーストステップ支援、伴走サポート
- ・スタート時の資金調達支援
- ・試行する機会の提供

中原区役所はメンバーとして区役所の持っている資源の提供(実施場所の利用許可(減免)、事業の共催、運営検討会の企画など)を通じて関わります

2. おさらい

○2月4日検討会の開催結果

- ・実施概要

日時：2月4日 18時30分～20時30分

会場：オンライン

人数：10人

中原区SDC創出に向けた検討

1 検討会の目的

中原区らしい市民主体のSDCの創出

- 中原区にある資源を活用
- 市民主体の運営
- 地域の活動や価値を生み出す
- プラットフォーム

3 検討会の目標

実施プラン作成・スマールスタートによる実践

- 意見交換会などの成果を踏まえた中原区SDCプランの検討
- スマールスタートでの取組開始

2 検討内容

目的、機能、運営体制、担い手の検討

- 目的の共有(言語化)
- 抽象的な機能の具体化・今ある資源で出来る機能の検証
- 実施する体制検討
- 担い手の検討

4 実施方法

実践できるプラン作成(できること探し)、プランの実践

目的共有、資源探し、プラン作成、実践を段階的に進める

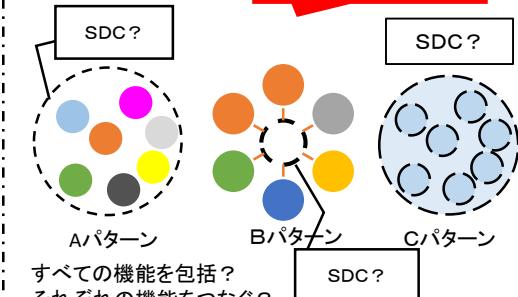


※取組と別に全体運営の検討が必要

SDCの目的に向かっているかハンドリングするものが必要か?
個別機能は関心ある方で検討できる。全体運営の検討は…

実現する機能を生かすSDC運営の仕組みとは?

SDCは機能の集合体としたらどんな枠組みが必要?
やりたいこと・できることの集まり?



意見交換テーマ②

検討のSTEP

何やるか

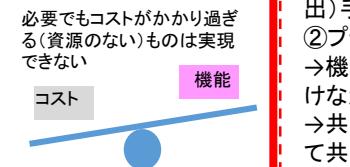
1/21 STEP1 機能の検討

これまでの検討で出てきた機能の整理
→カテゴリ分けして分かりやすい言葉にする
(SDC機能の言語化)
≡SDC機能の共有

目指していることの共有が大事

2/4 STEP2 今後の検討方針確認

- 前回のまとめ
- SDCイメージ(運営方法)についてパターン提示
- 今後の検討の進め方提示、方針決め



どうやるか

STEP3-1 取組検討

- ヒト、モノ、カネ
取組に使えるものとは?
継続性を担保するための資源開発、収入を得る(コストの捻出)手法の検討も
- プラン作成
→機能アイデアと資源を結びつけながらプラン検討
→共感を得られるプランについて共感者とさらに検討

運営の仕組み

STEP3-2 仕組み検討

個別の機能をまとめる仕組みの検討

意見交換テーマ①

4月～ STEP4 実践

- スマールスタートで始める。
- 始めた機能の集まりが中原区SDC?
- 最終的な仮中原区SDCモデルを共有する
- 改善しながら実施。

【SDCへの関わり方】

地域活動参加レベルを意識し、適したステージで参加する

地域の
キーパーソン
≡コアメンバー

主催側として
参加

お手伝いとして
参加

お客様として
参加

予備軍

協力者

協力者

協力者

参加

なし

2. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会ノート

意見交換テーマ①<SDCの運営の仕組みについて>

- ・(進行資料右上の運営の仕組みの図中)左側の図が望ましいが、組織としての顔がないと活動しにくい。
- ・市民にとって使いやすい、なじみやすいのは右側のパターン。市民活動センター、社協、地域包括支援センター等既存の団体が情報発信やつなぐ取組を行っている。区の地域みまもりセンターにも情報蓄積している。左側のイメージとして、既に複数あるそれらの団体の協議会を作るのはどうか。ただ、市民からは遠い存在。
- ・悩んでいるところ:全ての機能を満たそうとすると整った組織が必要。それだと思い描いていたものと違う気がする。思い描いていたもの:必要なところからスモールスタート。まずは「知る」とか。左側が良い。「となりの。」を活用?スモールSDC。
- ・どの機能をSDCに入れていくのかも要検討課題。知る、つながる、集うすべての機能があるべきなのか。まずゆるくつながり、知るところから入って、右側にスライドしていく形もあるかも知れない。
- ・いきなりCパターンだと、既に活動している人の中には邪魔に感じる人も。まずは人の話を聞いてみるところからでよい。スモールスタート。
- ・既にあるものとの共存も必要。

- ・イメージは、市民が市民の問題を解決していく。区民全体がSDCに参加する。サークル活動・部活動を支援を受けながらやる。ゆるいつながり。参加資格は住んでいる?わかりやすい=参加しやすい
- ・何かひとつSDCというものがあれば参加のハードルは上がるが、分かりやすさはある。区役所も悩んでいるところ。『参加のしやすさ』、『わかりやすさ』どちらを重視するか
- ・○○オファー○○案内所。既にあるFacebook→色々な活動を一覧に。一番小さなSDCのイメージ。
- ・スモールスタートは橋本さんのイメージ、親しみやすさは参加しやすさにつながる
- ・どのレベルのものをSDCにするのか。ネットワーク=SDC?センター機能があるもの=SDC?
- ・ネットワークは「知る」という面でよい。「つなぐ」という面でも、いつ・どこで活動しているか情報まとめてみる。そこまではネットワーク上でできる。まずはネットワークで「知る」ところから。
- ・一般の住民への価値提供・既に活動している人への価値提供がある。住民と市民活動の間にあるのがSDCだと思っている。
- 住民をつなぐのがSDCのイメージとしてある。市民活動センターは既にがあるので。○○オファー○○案内所に近いイメージ。

2. おさらい

- ・〇〇オファー〇〇案内所がSDCと仮定すると、ローカルかわら版は何になる？SDCから生み出されたもの？SDCはそうした活動を生み出すのか？人や団体をつなげる存在なのか？両方なのか？
- ・SDCは組織でなくてもよくて、Facebookのような機能でもよいと思う。
- ・新しい活動を創出する「〇〇オファー」をコアとするならAパターンになるのでは。どこをコアとするか。
- ・基本的考え方の中のSDCの機能には、活動を生み出すことも含まれているが、中原のSDCで必ず全てやらなくてはいけないわけではない。どこまで含むかも検討していく必要がある。

意見交換テーマ②<今後の検討の進め方について>

- ・まず何をすべきかから議論。何をすべきか決めたことを誰がすべきか。Aパターンなら今いるメンバーで活動ベースで検討（自分たちが何ができるか基準に）。Cパターンなら運営をどうしていくか。目指すパターンによって議論の進め方が変わる。

- ・運営の仕組みの方向性を決めないと議論が進まないのではないか。既存団体をみんなが理解できていないと議論に影響する。まずは既存団体を知ってほしい。
- ・今できることから始めることが大事。まずできる取組を洗い出してみてはどうか。並行で形を決めていくのはどうか。
- ・既存団体・情報を知ること大事。無駄なことになりかねない。STEP3-2の仕組み検討の目鼻をつめて、位置づけていかないと。
- ・議論を進める上で今が分岐点。3パターンのSDCの仕組みのイメージ合わせが必要。ここでしっかりとまとめた方がよい。まとめる際に、既存団体や情報がどこに当たるか示されるとわかりやすい。
- ・地域みまもり支援センターで『地区カルテ』を作成。全てではないが、ある程度は地域の活動が記載されている。ぜひ見てみてほしい。そして、Slackで皆さんの知っている地域情報を教えてほしい。

2. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

- ・意見交換テーマ①<運営の仕組みについて>
- ・運営の仕組みのパターン比較

比較の視点	Aパターン	Bパターン	Cパターン	
イメージ図 ・概要				<ul style="list-style-type: none">・各取組をルールだけでゆるく縛る (例:月1回の定例会で進捗確認する) <ul style="list-style-type: none">・事務局が各取組の連絡調整を行う <ul style="list-style-type: none">・1つの団体が各取組を直接行う(例:幸区、多摩区のSDC)
組織としての わかりやすさ (市民にとって の使いやすさ)	×	△	○	
運営への参 加しやすさ	○	△	×	
運営の始め やすさ	○	△	×	

- ・前提として検討が必要な課題
- ・デッサン修正案に記載した機能案のうち、どの機能を実践するか
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別(各パターンの小さな○は何を指して?)
- ・既存団体・事業との連携 → 後日Slackで情報交換

2. おさらい

○2月4日中原区ソーシャルデザインセンター創出に向けた検討会意見まとめ

・意見交換テーマ②<今後の検討の進め方について>

分類	意見
◎【最も多かった意見】	<ul style="list-style-type: none">・まず運営の仕組みを考える必要がある
○【他の視点の意見】	<ul style="list-style-type: none">・今できることから始めることが大事。それを洗い出してみてはどうか。並行で形を決めていくはどうか。
☆【検討を進める前提として確認が必要な意見】	<ul style="list-style-type: none">・既存団体をみんなが理解できていないと議論に影響する。まずは既存団体を知ってほしい。

2. おさらい

○既存団体・事業との連携

- ・Slack「資源情報共有チャンネル」投稿情報まとめ

分類	団体・事業		概要
	【情報収集・発信、ネットワーク化、相談支援を実践する機関とそのデータベース】	【市民団体の相談支援を担う機関】	
①法人	<ul style="list-style-type: none">・かわさき市民活動センター（データベース：つなぐっどKAWASAKI）・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター・川崎市国際交流協会（川崎市国際交流センター）	<ul style="list-style-type: none">・かわさき市民活動センター（データベース：つなぐっどKAWASAKI）・中原区社会福祉協議会・ボランティアセンター	法人化されており組織体制が整い、活動内容は明確で複数存在
②行政又は行政バックアップの団体	<ul style="list-style-type: none">・中原区内地域包括支援センター（データベース：川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト）・中原区役所地域みまもり支援センター・中原区まちづくり推進委員会（令和3年度で解散予定）・大企業と中小企業の知的財産マッチング支援		行政の一機能として組織化され、活動内容は、二つの支援センターはそれぞれ専門的で明確（特化型）。まちづくり委員会は包括的で自由度が高い（包括型）
③市民団体	<ul style="list-style-type: none">・かわさき若者会議・かわさき福祉情報サイト・趣味なび（川崎市の教室一覧）	<ul style="list-style-type: none">・川崎プロボノ部	市民個々人のボランティアで組織運営がなされ、活動内容は、プロボノ部は特化型でわかもの会議は包括型

2. おさらい

- ・既存団体・事業との関わり方の手法について(Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より)
 - ① 既存団体の情報をまとめてデータベース化してSDCメンバーも自ら調べられるように公開する(データベース化、情報公開)
 - ② 市民からの相談に対して、SDCメンバーが適切な既存団体を紹介する(マッチング、コーディネート)
 - ③ SDCメンバーが事務局となって既存団体を束ねた協議会を立ち上げ、団体毎の役割分担などの整理や、区民にとって分かり易くなる様に各団体と調整を図る(協議会)
- ・SDCの情報発信に関する意見(Slack「資源情報共有チャンネル」投稿より)

既存団体で発信されている情報以外の情報を取り扱う必要がある。
→情報の収集発信をテーマとして、わかもの会議的なゆるいつながりを持った集団として、まずは立ち上げるという道があるのでは。

3. 意見交換

○OSDCの運営の仕組みについて

- ・前提として検討が必要な課題
- ・デッサン修正案に記載した機能案のうちどの機能を実践するか
→今ある資源でできる取組を検討し積み上げるしかない？
- ・SDC本体の取組と地域活動の区別
→現時点で明確に区別、定義するのは難しいのでは？
- ・既存団体・事業とのすみ分け
→十分に把握した上で、SDCの取組を検討していく？

⇒本日の検討を土台にして、次回以降できること（具体的な取組）を検討したいと考えています

4. その他

○次回検討会開催予定

日時：3月4日（金）18時30分～20時00分

会場：オンライン

議題：本日の結果に合わせて検討

詳細は追って御連絡します。

4. その他

～「やってみたい」をカタチにしませんか？～

はじめて学ぶ クラウドファンディング オンライン(Zoom)講習会



「クラウドファンディング」って何だろう？
という方から、実際にチャレンジを考え
いる方まで、成功に近づくためのヒントも
交えながら幅広い内容で実施します。
希望者には個別相談会も!!

クラウドファンディングにご興味のある方は
ぜひ、ご参加ください。

日 時 3月11日(金) 午後6時30分～午後8時00分
※講習会終了後、個別相談会を行います(先着3名まで)

参加費 無料

定 員 50名程度(先着)

申込方法 右の申込フォーム又は
市ホームページから
お申し込みください
(申込締切:3月8日(火))

お問い合わせ 川崎市市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課
TEL:044-200-1986
e-mail:25kyodo@city.kawasaki.jp

講師
かまくらさちご株式会社
代表 鎌倉 幸子

プロフィール
2016年1月、かまくらさちご株式会社を設立。クラウドファンディングを含むファンディングの企画・運用支援、社会的インパクト・マネジメントや組織基盤強化などのコンサルティングを行っている。現在まで約100件のクラウドファンディングの伴走支援を行った経験を有する

QRコード
申込フォーム
or 市ホームページで
はじめて学ぶクラウドファンディング講習会

 KAWASAKI
希望のシナリオ

おわりに

ご不明な点やご意見、また、新しい参加者のご紹介も常時歓迎しておりますので、何かございましたら、中原区役所企画課までご連絡くださいますようお願ひいたします。

本日は
ありがとうございました

